

TESTING METHOD FOR WASTE WATER

Patent Number: JP62249059
Publication date: 1987-10-30
Inventor(s): YAMAZAKI KAZUYUKI; others: 02
Applicant(s): TAISEI CORP
Requested Patent: ☐ JP62249059
Application Number: JP19860092531 19860422
Priority Number(s):
IPC Classification: G01N33/18; C02F3/32
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE:To enable an overall test in terms of whether waste water is harmful or harmless to living bodies by providing means for supplying in-tank water from one to the other to a fish breeding tank and plant culture tank.

CONSTITUTION:Objective fishes 5 are bred in the fish breeding tank 1 and objective plant 6 is cultured in the plant culture tank 2. The residues of feed, excrements, etc. by the breeding of the fishes 5 are supplied by the means 3a for supplying the in-tank water to the plant culture tank 2 where the residues, etc., are filtered and decomposed and are at the same time used to grow the plant 6 as the nutrient thereto. The water cleaned thereby is supplied by the means 3b for supplying the in-tank water into the fish breeding tank 1. The waste water or treated water is introduced in this state into the fish breeding tank 1 through an introducing pipe 11 and the influence thereof on the fishes 5 and the plant 6 is visually observed, by which the generation of abnormality in the objective treatment installation, etc., is checked.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-249059

⑮ Int. Cl.

G 01 N 33/18
C 02 F 3/32

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

8506-2G
7108-4D

⑬ 公開 昭和62年(1987)10月30日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 廃水の試験方法

⑯ 特 願 昭61-92531

⑰ 出 願 昭61(1986)4月22日

⑱ 発 明 者 山 崎 和 幸 諫早市真崎町1386
 ⑱ 発 明 者 嶋 村 耕 作 長崎県西彼杵郡多良見町化屋名2-128
 ⑱ 発 明 者 井 上 和 夫 横浜市西区戸部町3丁目84 大成建設アパート131
 ⑲ 出 願 人 大成建設株式会社 東京都新宿区西新宿1丁目25番1号
 ⑳ 代 理 人 弁理士 三 芳 晃 司

明 細 書

1. 発明の名称

廃水の試験方法

2. 特許請求の範囲

(1) 魚類飼育槽と植物栽培槽とから成り、夫々
 他方に対する槽内水供給手段を設けた試験部を
 形成し、前記魚類飼育槽に対設とする魚類を飼育
 及び前記植物栽培槽に対設とする植物を栽培し
 ている状態に於いて、原廃水または原廃水を必
 要に応じて処理して成る処理水を試験部に導入
 すること
 を特徴とする廃水の試験方法

(2) 植物栽培槽は、鉢を支持可能な栽培床を水
 下に形成したことを特徴とする特許請求の範囲第
 1項記載の廃水の試験方法

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、河川等の公共水域に放流する廃水
 を、理化学的評価手段を用いるのではなく、生物
 に対して有害か、無害か、という観点に於いて試
 験するための方法に関するものである。

(従来の技術及びその問題点)

各種産業の工場等から排出される廃水は、従
 来、その水質に応じて、酸堿沈殿法、接触酸化
 法、伊過法、吸着法、活性汚泥法等の化学的、
 生物的、物理的処理方法を、必要に応じて単独
 で、または適宜組み合わせで処理し、条例等の
 法的規制値を満たした状態で河川等の公共水域
 に放流している。一例を挙げると、塩類が多く
 含まれている半導体工場の廃水については次の
 ような処理が行なわれている。

① 廃水にふつ素イオンが規制値以上(ふつ素
 (F)として15 ppm以上)含まれている場合には、
 消石灰やアルミ剤(例えばポリ塩化アルミニウ
 ムや硫酸ばんどを加えて反応凝集させ、ふつ化
 カルシウムやふつ化アルミニウムの沈殿物とし
 て除去する。② 廃水にBOD源やCOD源となる
 アルコール類やアセトン等の有機溶剤が混入し
 ている。その結果としてBODやCODが規制値
 以上の場合には、接触酸化法、回転円板法、活
 性汚泥法等の、微生物を利用した方法や、活性
 炭による吸着法に

よつて前述したようなBOD像やCOD像を除去する。③廃水に浮遊物質(SS)が規制値以上含まれている場合には、緩速浮過法(重力式浮過法)や急速浮過法によつて物理的に浮遊物質を除去する。④一般に半導体工場の廃水は、エッチング工程等のいくつかの工程に於いて硫酸(硫酸、硝酸、塩酸、りん酸、ふつ酸等の無機酸)を多く使用することによりpHが低く、また前述した様にふつ素イオンを含有しているので、消石灰等によりpH処理を行なう。

従来は以上のような各種処理方法によつて処理して成る処理水または原廃水(以下まとめて廃水と云う)を、水質汚濁防止法に基づき、JIS OK102に定められた測定法等の、主として理化学的評価手段によつて評価して、前述した通り法的規制値を満たした状態で河川等の公共水域に放流しているのである。

このように従来は、放流する廃水を、pH、BOD、COD、SS、F等の各項目毎に理化学的手段によつて評価しているのであるが、かかる手段により

による植物に対する影響は、土壌による緩衝作用により、発現するまでに相当な時間を要し、問題が生じた場合にも、それに対処して処理設備等にフィードバックするということはできなかつた。(問題点を解決するための手段及び作用)

本発明は以上の問題点を解決することを目的とするもので、即ち、本発明は、魚類飼育槽と植物栽培槽とから成り、夫々に他方に対する槽内水供給手段を設けた試験部を構成し、前記魚類飼育槽に対象とする魚類を飼育及び前記植物栽培槽に対象とする植物を栽培している状態に於いて、原廃水または原廃水を必要に応じて処理して成る処理水を試験部に導入することを要旨とするものである。以下実施例に対応する図面に基づいて詳述する。

第1図は本発明に於ける試験部を模式的に示すものである。該試験部Aは、魚類飼育槽1と植物栽培槽2とから成り、夫々に他方に対する槽内水供給手段を設けた構成である。図示例に於いては植物栽培槽2を魚類飼育槽1の上方に設け、該

評価され、法的規制値を満足している廃水であつても、それが必ずしも魚類や植物等の生物の生育に適しているとは限らず、例えば廃水に多くの塩類が含まれていたり、pH値が前記法的規制値の範囲の下限近傍であつたりする等に於いては有害である。従つて廃水を、生物に対して有害か、無害か、という観点に於いて総合的に試験し得る方法が望まれている。

ところで、生物に対しての廃水の影響を試験する目的で、放流口付近にビツトを敷けて、ここにこいや金魚等の魚類を飼育したり、敷地の一部に植物を栽培して、ここに廃水を散布する方法は、従来からも行なわれている。

しかしながら、かかる従来の方法では、試験を行なう場所、即ち魚類及び植物を飼育及び栽培する場所に自由度が少なく、これらに対する廃水の^{試験}の影響を同時に、手証に行なえないことに加えて、魚類が死滅したり、植物が枯れたりした場合にも、その原因が廃水にあるのか、また管理や病気の発生にあるのかを明確に判断し難かつた。また廃水

魚類飼育槽1から植物栽培槽2への槽内水供給手段3aはエアープンプ4によつて動作させるエアリフトポンプで構成し、また植物栽培槽2から魚類飼育槽1への槽内水供給手段3bはオーバーフロー管で構成しているが、魚類飼育槽1と植物栽培槽2の配置及び槽内水供給手段3a、3bの具体的構成は適宜である。魚類飼育槽1及び植物栽培槽2は、夫々魚類5及び植物6を良好に成育し得るための適宜の手段を講ずることができる。例えば図示例に示すように、魚類飼育槽1の底壁7を、槽内水供給手段3aの吸水部8に向つて傾斜させて、飼料の残査や糞等を堆積させずに植物栽培槽2に供給し得る構成とし、また該植物栽培槽2は、植物6の栽培床9を、さんごやかき殻等を充てんして浮遊分解部を兼用する構成としたり、魚類飼育槽1及び植物栽培槽2を環境調節用の囲い10で覆う構成とする等である。この他、環境の変化に応じて遮光したり、換気をしたり、加温したり等の適宜の手段を講ずることができる。尚、植物栽培槽6は図示例に於いて、鉢¹⁶を支持可

能な栽培床9を水面下に形成して、終極の植物6を栽培可能としており、かかる形成では、水耕栽培に適さない植物も栽培可能である他、必要に応じての植物6の取り替えを容易に行なえるという利点がある。

以上の形成に於いて、前記魚類飼育槽1に、対象とする魚類5を飼育すると共に、植物栽培槽2に対設とする植物6を栽培するのであるが、例えば魚類5としては、はや、あゆ、ます等の良好な水質を好むもの、こいやふな等の比較的悪い水質でも生育し得るもの、どじょうのようにかなり悪い水質でも生育するもの等を、廃水を放流する河川等に於ける生育状態の調査に基づいて適宜に選択することができる。また植物6としても、トマト、レタス、セロリ、きゅうり等の水耕栽培に適するもの、花類や木類等の水耕栽培に適さないもの等から、異常に敏感なもの等を適宜に選択することができる。

しかして魚類5の飼育による飼料の残査や糞等は槽内水供給手段3aによつて植物栽培槽2に供

が出てくるので、これらを視認することで異常の発生を確認することができるのである。植物6は~~鉢1~~¹⁶を用いて土12で栽培していても、根13が直接に、または直接的に廃水と接するので、影響の発現までの時間が短かく、こうして廃水の影響を魚類5及び植物6のいずれに於いても速やかに確認することができるので、前記処理設備等にフィードバックさせることも容易である。

このようにして本発明は、廃水の採取箇所や魚類5及び植物6の種類を変えて、廃水が生物に対して有害か、無害かを試験することができる。この際、監視すべき廃水の変更は、例えば試験部Aに設けた複数の吸入管11を、弁14の操作により切り換えて行なうようにすることができる。尚、試験部Aは据え置き式に形成する他、場合によつては可搬式に形成することができ、いずれにしてもコンパクトに形成することができるので、必要に応じて適所で随時に廃水の試験を行なうことができる。

(発明の効果)

給され、ここで迅速分解されると共に、植物6の栄養素として生育に供され、そしてこれにより清浄となつた水が槽内水供給手段3bによつて魚類飼育槽1に供給される。このように魚類飼育槽1と植物栽培槽2とを有機的に結合することにより、魚類5及び植物6を良好に飼育及び栽培することができる。

本発明は以上の状態に於いて、廃水、即ち原廃水または原廃水を必要に応じて処理して成る処理水を試験部Aに導入するのである。図示例に於いては、吸入管11を介して魚類飼育槽1に導入しているが、植物栽培槽2側に導入しても良い。

しかして処理設備の不調等により異常な廃水が導入された場合には、前述した良好な飼育及び栽培条件が崩れるので、魚類5及び植物6に影響が発現し、これを視認することにより対象とする処理設備等に於ける異常の発生を確認することができる。例えば魚類5及び植物6の双方に有害な廃水が導入された場合には、一般的には、まず魚類5が死滅し、次いで植物6が枯れ始める等の影響

本発明は以上の通り、魚類飼育槽と植物栽培槽とを有機的に結合することにより、夫々に於いて魚類及び植物を良好な条件で飼育及び栽培し得るように形成し、このように形成した試験部に試験をすべき廃水を導入するので、魚類または植物の、両者またはいずれか一方が発現した影響を視認することで、廃水が有害であることを確認することができ、従つて生物に対する廃水の影響を、従来の理化学的手段のような各項目毎の評価ではなく、生物に有害か、無害か、という総合的な観点から試験、そして評価することができるという効果がある。殊に本発明は、魚類と植物への廃水の影響の試験を一体的に行なうことができると共に、試験部をコンパクトに形成することができるので、必要に応じて適所で随時に試験を行なうことができ、更に植物に対しても、従来のように土壌による緩衝作用に左右されずに速い応答の試験を行なうことができ、従つて試験結果を速やかに廃水処理設備等にフィードバックを行なうこともできるという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明を実施する試験部の構成の一例を模式的に示す説明図である。

符号 A…試験部、1…魚類飼育槽、2…植物栽培槽、3 a、3 b…槽内水供給手段、4…エアポンプ、5…魚類、6…植物、7…底壁、8…吸水部、9…栽培床、10…囲い、11…導入管、12…土、13…根、14…弁、15…放流部、16…針。

出願人 大成建設株式会社

代理人 三 賢 晃 司

図 面

